

口永良部島

概況

火山性地震、火山性微動ともに増加し、火山活動はやや活発になっています。

噴煙活動の状況

監視カメラによる観測では、新岳・古岳からの噴気は観測されませんでした。

地震・微動活動の状況

火山性地震が 1 月 2 日からやや増加し、その後もやや多い状態が続き、月回数は 346 回(12 月:108 回)でした。これは気象台における観測開始(1999 年 9 月 13 日)以来最多の回数で、これまでは 2004 年 1 月の 315 回でした。火山性地震の 1 日あたりの最多回数は 3 日の 28 回でした(図 1)。

火山性微動は昨年 12 月下旬からやや増加し、月回数は 59 回(12 月:18 回)でした。火山性微動の月回数も気象台における観測開始以来最多の回数で、これまでは 2004 年 2 月の 45 回でした。火山性地震の震源は主に新岳火口付近に決まっていますが、21~22 日にかけて新岳火口の北西約 2 km の深さ約 3 km に 4 個決まっています(図 4)。

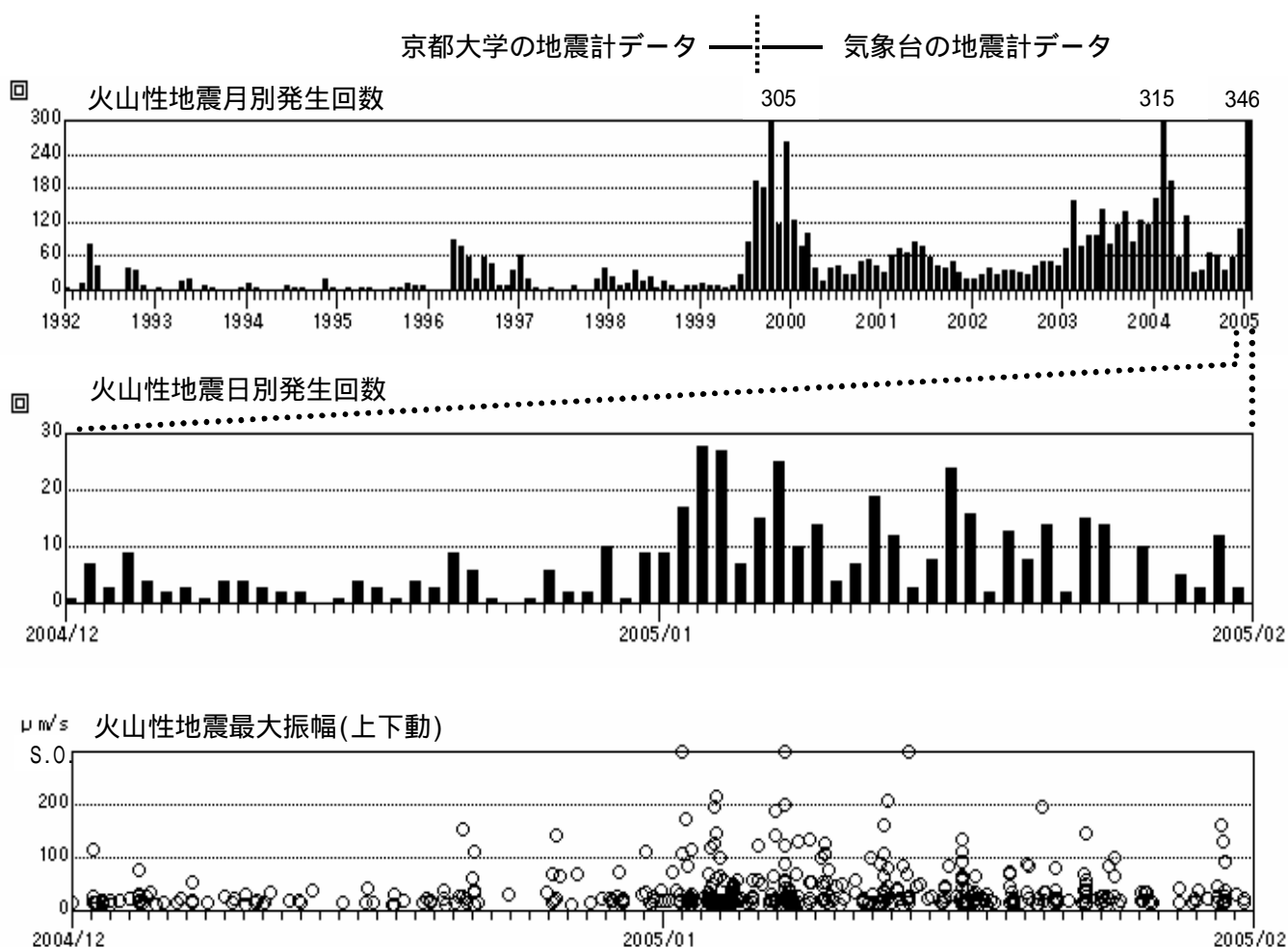


図 1 火山性地震活動経過図(1992 年 1 月 1 日 ~ 2005 年 1 月 31 日)
1999 年 9 月 12 日までは、京都大学のデータを利用

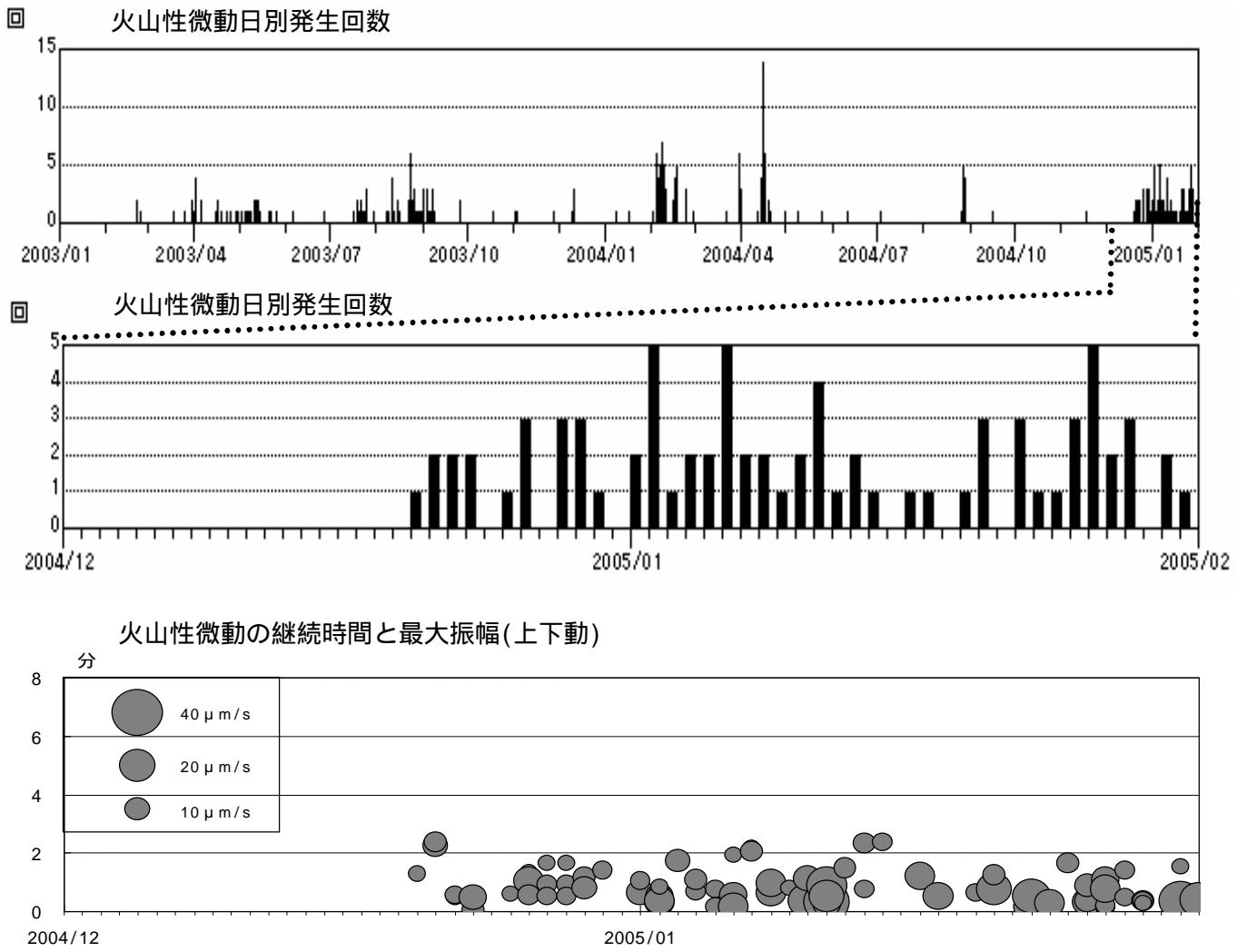


図2 火山性微動活動経過図(2003年1月1日~2005年1月31日)

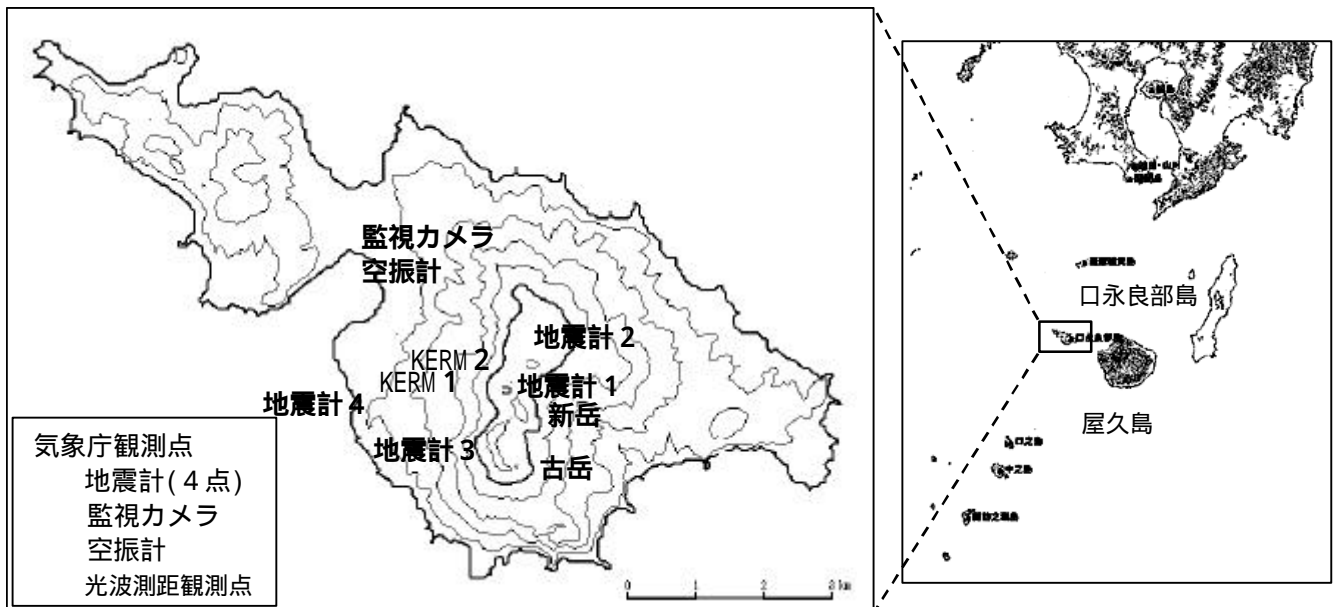


図3 観測点位置図

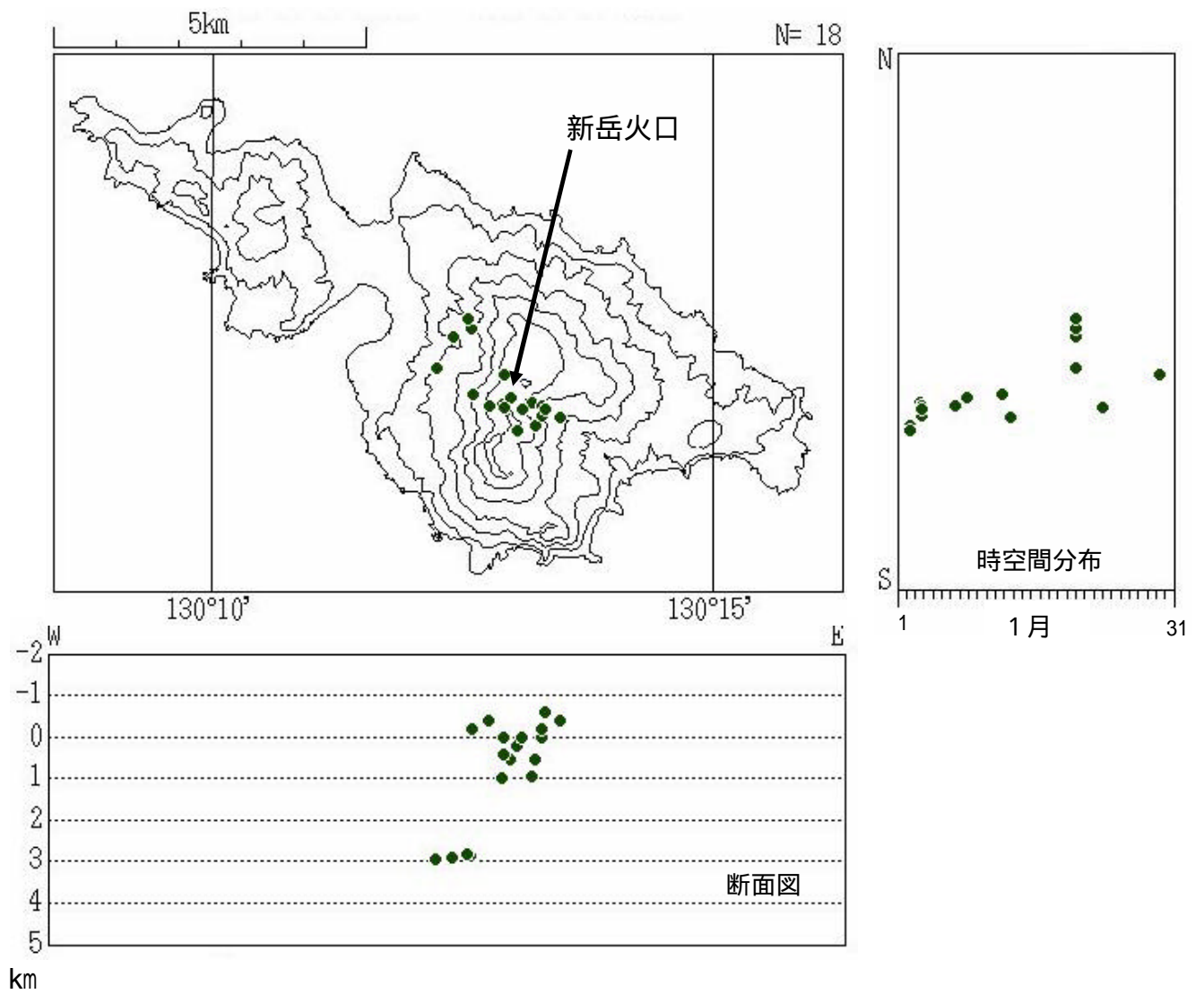


図4 火山性地震の震源分布(2005年1月1~31日)